

	学校名：長野県安曇野市豊科南中学校	● 実践教科等：総合的な学習の時間
	氏名：浅原 規貴	● 時間数：12 時間
Viet Nam	[担当教科：英語]	● 対象生徒：中学 1 年生
		● 対象人数：30 人

1 単元名 社会に目を向けよう！・・・安曇野まちなか調査

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

- (1) ベトナムと日本の関係から「相互依存関係」に気付き、国際社会における日本が果たす役割について考えることができる。
- (2) 「水」の学習を通して世界の諸問題を知り、JICA の支援活動を知ることを通して、自らの行動に生かすことができる。
- (3) 地域の「水」の課題を知ることで、持続可能な社会の構築に向けての態度を養う。

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る | 2 子供の多様な考えを引き出す |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る | |

4 単元の指導について

(1) 教材観

安曇野市は北アルプスからの伏流水が湧き出ており、昔からわさび栽培やにじます養殖が行われ、市の特産品となっている。また、水道水は地下水 100% であり、安全でおいしい水を飲むことができる。不自由なことなくきれいな水を得られ、その水の恩恵を受けている自分達の生活と、ベトナムを始め世界全体の、下水処理も含めた水事情を比べることで、世界に目を向けるきっかけとなり、日本の国際貢献や国際協力の必要性や現状を知ることができる。

一方、安曇野市の豊富な湧水が近年減少傾向にあり、地下水保全委員会が立ち上がったということを知り、「なぜ地下水を守るのか？」という問いの答えを考えることを通して持続可能な社会の必要性に気付き、SDGs のことを学び、その視点から身のまわりのことを見直す態度を養うことができる。

(2) 生徒観

生徒に聞いたところ、外国のことで知っていることと言えば、サッカーや野球などで日本人選手が海外のチームに移籍して活躍していることや、オリンピックのことといったスポーツの話題と、新聞やニュースで報道される範囲での世界情勢である。必要性がないためか、なかなか日本と世界のつながりについて知ったり、ましてや発展途上国について知ったりする機会は少ないようだ。しかし、世界の現状について JICA の動画を見たり、写真を見たりしながら説明を聞くと、興味を示し、心を寄せて受け止める姿勢がある生徒たちである。生徒から湧き上がる疑問をもとに、授業を展開していこうと考えた。

クラス全体の前で発言できる生徒は少ないが、生徒同士仲が良いので、グループでの活動を通して、意見を出し合って考えを深めたり、カードゲームやロールプレイングなど参加型の手法を用いたりして、理解を深めるよう配慮した。

(3) 指導観

ベトナムをはじめとする世界各国の現状と、自分たちの生活とを結び付けて考えられるように授業を展開していく。よって世界の現状と、安曇野市の実態に関する内容が行ったり来たりするが、その中から共通する課題「持続可能性」を見出し、SDGs について学ぶことにつなげていく。

5 評価規準

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の現状について知り、国際協力の必要性について考えようとしている。 ・自分たちの住む安曇野市の水環境について興味をもって知ろうとしている。 ・世界と日本(安曇野市)とのつながりから課題を考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力の必要性について自分なりの考えをもつことができる。 ・「水」について調べることを通して、自分の生活を見直すことができる。 ・世界と日本(安曇野市)の「水」の課題から「持続可能性」に気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の中で、日本は諸外国と相互依存の関係にあることを理解できる。 ・安曇野市の「水」に関する課題を理解できる。 ・「持続可能」な社会の必要性を理解できる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動への参加態度 ・調べ学習への取り組み態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の内容 ・グループでの話し合いの内容 ・ワークシートに書かれた内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の内容 ・ワークシートに書かれた内容

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	もっと知ろう世界のこと	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界とのつながりを知り、これからの学習の課題や意欲をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に関係している外国のことを挙げる。 ・動画「もっと知ろう世界のこと～JICA は世界とともに～」を視聴し、学んだ事、感じたこと、もっと知りたいことや疑問点を記入する
2	なぜ発展途上国を支援するのだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・世界(発展途上国)の現状を知る。 ・相互依存関係にあることに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の課題を知り、国際協力の必要性を考える。 ・自分たちの生活が世界(発展途上国)との相互依存の上に成り立っていることに気付く。(知識構成型ジグソー法)
3	相互依存関係を実感しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・相互依存関係を、より自分事として身近にとらえられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド「どうして国際協力？」や動画「世界はキミにつながっている」を視聴し、より自分事として捉える。 ・相互依存神経衰弱をグループで行い、自分達の生活は外国からの輸入品で成り立っていることを実感する。
4 5	下水処理施設アクアピア安曇野を見学しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市の下水処理の実際を処理場の見学をしながら学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地に赴き、担当者に質問したり、現場を見学したりしながら下水処理の実際と課題を知る。
6	安曇野市の上水道ができるまでを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが普段飲んでいる水道水はどこから来るのかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド「安曇野市の上水道ができるまで」を見ながら、安曇野市の水道は地下水 100%であることを知る。
7 8	私たちは何に、どれくらいの水を毎日使っているのだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちは水を何に、どれくらい使っているのかを知ることを通して、水の大切さに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで自分たちがどのくらいの水を、何に使っているかを調べ、円グラフに記入する。 ・自分たちが使う水のほとんどは、「洗う」こと、きれいにすることに使われていることに気付く。
9	水から世界を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の水事情を知ることを通して、課題を知る。 ・水を得られないことによる負の連鎖に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・World Vision「水から世界を知ろう！」の冊子を使って、世界には水道がなく、水くみに多くの時間を費やすことや、安全な水を得られずに亡くなる人が沢山いることを知る。 ・負の連鎖カードを用いてグループ活動を行う。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

10	ベトナムでの日本の協力	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムにおける日本の協力の現状を知る。 ベトナムの水環境整備を支援するのは何故かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 撮ってきた汚れた状態の川の写真を見る。 また、ベトナムの下水処理事情について説明を聞く。ベトナムの人々は水道水を直接飲まず、1度煮沸してから飲んだり、ペットボトルの水を飲んだりしていることを知る。 なぜそのような状態にあるのかを考える。 なぜベトナムの水環境を改善するのか？ →相互依存や持続可能性にも気づく。
11	地下水位の低下	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む安曇野市の「水」に関する課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野市は水の恩恵を受けて産業等が成り立っている。 わさび農場、養鱒業、稲作、温泉、ペットボトル水等 安曇野市の地下水の水位が低下している問題を知る。 →地下水保全研究委員会の紹介 立場が異なる4者によるロールプレイング なぜ水を守るのかを考えさせ、そこから「持続可能な社会」という言葉やSDGsを知る。
12	SDGs について調べてみよう	<ul style="list-style-type: none"> 「持続可能な社会」やSDGs というワードについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 17 の目標に関係する身のまわりのトピックを知る。 SDGs の視点で身の周りの物事やニュースを見聞きし、関心を寄せていくきっかけとする。

7 授業事例の紹介

小単元名【ベトナムでの日本の協力】

(1) 指導案

(ア)実施日時 11月13日(月)第5限

(イ)実施会場 1年3組教室

(ウ)本時の目標

- 写真や動画を見ることを通してベトナムの人々の生活の様子や学校生活の様子を知る。その中からベトナム社会の抱える課題に気付く。(上下水道に関わって)
- ベトナムと日本とのつながりや日本(JICA)の支援について知る。
- なぜ他国(開発途上国)を支援するのかを考え、SDGsの取り組みを知るきっかけとする。

(エ)指導のポイント

現地で撮影してきた写真や動画をふんだんに用いて、生徒に分かりやすく提示する。クイズをはさんだり、生徒に問いかけたりしながら展開し、なぜ「国際支援をするのか」ということをより具体的に考えさせる。今現在の世界への支援だけでなく、100年後の未来の人々や生き物たちも安全で安心して生活できる世界をつくっていくための支援であることに気付かせる。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
前時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 世界の水事情 負の連鎖 <p>【1】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ア.きれいな水を手に入れられない人数 イ.水はどこで汲むか ウ.きれいな水の大切さ </div>	1. 冊子「水から世界を知ろう！」を使って世界の水事情の確認をする。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 前時に冊子の扱いが途中だったので、その続きを確認する。 きれいな水(安全な水)を得られず亡くなる人の数の多さ、水汲みのために学校へ行けないことによる「負の連鎖」を思い出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の水事情を理解できたか。冊子への記入状況などからみる。

学習問題の投げかけ、学習課題の設定	<学習問題> 現地の人たちの力だけで、この命を救ったり、負の連鎖から抜け出したりすることができるだろうか。【1】				
	<学習課題> ベトナムと日本の関係を知ることを通して、日本がなぜ他国を支援するのか考えよう。【1】				
スライドを見ながらベトナムを知る	・スライド「ベトナムと日本の関係を知ろう!」【3】	2. 写真や動画、教師の説明を見聞きすることで、ベトナムの人々の生活の様子を知ったり、日本との関係を知ったりする。	一斉	・現地で撮影してきたベトナムの人々の生活の様子や学校生活について紹介する。 ・目覚ましい発展をとげ、中所得国になったベトナムであるが、発展にともない環境面での課題に着目させる。(特に上下水道について)	・下水処理がほとんど行われていない状況など、都市化、工業化の課題が理解できたか。
	・日本(JICA)によるベトナムへの支援【4】	3. スライドを見ながら、日本(JICA)がベトナムに対して行っている支援について知る。	一斉	・チュック・バック下水処理施設や下水道専門家若公さんの思い、下水処理に関わる最近のベトナム支援のニュースを中心に紹介する。	・支援する思いを汲み取れたか。
国際支援の必要性を考える	日本がなぜベトナムを支援するのだろうか。				
まとめ	・国際支援、協力の必要性【2】	4. 日本がなぜベトナムを支援するのか考える。 ・貿易でお互いに支え合っている関係だから。 ・日本も助けられているから。 ・日本の技術を役にたてて、困っている人々を助けるため。 ・ベトナムの水は海に流れ、そして海は日本にも世界中にもつながっているから。	班活動	・以前、「なぜ国際支援をするのか」を知識構成型ジグソー法を用いて学習済みだが、抽象的で難しかったので、ベトナムとの関係から分かる支援の必要性を引き出す。	・「相互依存」といった難しい用語ではなく、自分のことばで語れたか。
	・縦のつながり。持続可能な社会の構築に向けて【6】	5. 本時の学習を通して、学んだこと、気付いたこと、感じたこと、疑問に思うことを学習シートに記入する。	個別	・世界と自分とはつながっていることを自覚し、他国の問題も、気にしていく。更に、今現在のことだけでなく、将来ずっと安全で安心な水が飲めるようにすべきである。ということを引き出す。	・持続可能性に気付けたか。

(2) 授業の振り返り

前時の振り返りの時間が長くなってしまったことと、ベトナムで撮影してきた写真をたくさん盛り込みすぎたため、生徒が考える時間が短くなってしまったことが大きな反省点である。

単元の初めの方で、なぜ国際協力をするのかということ扱ってはいたが、漠然とした捉えだったので、日本とベトナムのつながりを通してより具体的に実感できるように願っての本時であった。ベトナムでは下水処理施設の普及が不十分であり、川の水の汚染が課題であることを撮影してきた写真を見せて話したところ、生徒からは「えびが日本へ輸入されているが、汚れた水で育てられたえびだと心配だ。」という意見があった。水環境を改善するために日本が支援している意義が実感できた場面だと考えられる。

次時には安曇野市の地下水位低下の問題を取り上げ、ロールプレイングを行った。問題を他者のせいにするのではなく、自分事として捉え、なぜ水を守るのかという問いから、「持続可能性」というワードに気付かせ、SDGs について学習していく予定である。

(3) 使用教材



<ベトナム家庭で煮沸してから飲む水道水>



<ベトナムの川の写真>



<日本の協力で作られた下処理場の写真>

<わさび農業協同組合代表 丸山さん>



わさびは今、寿司や刺身などに欠かせない香辛料として、世界中にその存在を広めています。健康長寿を誇る日本の食文化と一緒に、健康的な食材の1つとして海外でも注目を集めているのです。雑菌が増えるのを抑える強い力を持ち、美肌などの若返り効果もあると言われていました。また抗がん作用の研究の面からも注目されています。

生産量では、都道府県別で長野県がダントツ1位(2位は静岡県)。そして長野県全体では、90%以上が安曇野産なのです。1日120,000t(23万人が1日に使用する量)という豊富な湧水があるからこそ、安曇野は日本一のワサビの収穫量を誇っているのです。

大王わさび農場は東京ドーム10個分余りの広さを持つ個人のワサビ田です。創業者の深沢勇一は、土地も資金もほとんどない状態からワサビ田の開田に着手しました。

大正4年から工事に取り組み、農閑期(のうかんき)に地元の農民1日平均200人を雇い、20年の歳月をかけて地面を掘り下げ、土砂を周りに積み上げて、最初のワサビ田を完成させたのです。

そんな歴史があり、お客さんがわさび田の景観を楽しみにたくさん来ているのに、地下水の減少でわさび栽培できなくなったら一大事だ。ニジマス養魚の地下水くみ上げが多すぎるんじゃないでしょうか。



<安曇野市の地下水位低下問題で使った4者の立場によるロールプレイングのカードのうちの1枚>

(4) 参考資料等

- ・ JICA動画「もっと知ろう世界のこと～JICAは世界とともに～」 「世界はキミにつながっている」
- ・ 相互依存神経衰弱 JICA作成
- ・ 「負の連鎖」カード JICA「国際理解教育実践資料集」より
- ・ 「水から世界を知ろう！」ワールド・ビジョン・ジャパン
- ・ 教師海外研修訪問国理解(ベトナム) 森口加奈子
- ・ ベトナム下水道の状況 JICA専門家 岩崎宏和 2010.5
- ・ ベトナム事務所月報 9月号

- ・ 日本の協力と JICA 事業 古賀聡子
- ・ 「先生、国際協力って必要なの？」知識構成型ジグソー法 本田龍輔
- ・ 「わたしたちの地球と未来 ベトナム社会主義共和国」愛知県国際交流協会
- ・ 安曇野市ホームページ

<https://www.city.azumino.nagano.jp/site/mizumonogatari/2485.html> (2017,11,10)

8 単元を通じた児童生徒の反応/変化

単元の1時間目に JICA で配信している動画「もっと知ろう世界のこと～JICA は世界とともに～」を生徒に見せた。分かりやすい動画であり、生徒は興味をもって観て、次のような疑問をもった。

○どうして日本は発展途上国を支援しているのか。○JICA は具体的にどのような活動をしているのか。

○発展途上国のことをもっと知りたい。○JICA 以外に支援している団体について知りたい。

○支援するために自分ができることは何だろう。○日本にも困っている人はいるのではないだろうか。

普段の生活では、自分のことで精一杯であり、外国の事、発展途上国の現状に目を向けることは少ない。それは私自身もそうであるが、世界に目を向ける機会があることで、興味と疑問をもつことができるし、真剣に考え、自分事として捉えようとする前向きな姿勢をもてることが分かった。

学んだことを実践に移せるかというそうではないが、知らなかったことを知り、頭や心にインプットされたことによって、より視野の広い人になれるだろうと信じている。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

ベトナムのことを紹介するのではなく、ベトナムを通して、世界や発展途上国のことを知ったり、自分たちの生活を見直したりできるようにと考えて授業展開を考えてきた。また、教師側の一方的な知識の注入にならぬよう、生徒から発せられる疑問が解決されるように進めてきたつもりである。

ベトナムでは下水処理の環境が不十分で、日本がその改善支援をしていることと、安曇野市はきれいな水で有名であることを結び付けて授業を展開してきたことは、生徒がより興味をもって学べた一因だと思う。また、「水」に関しては世界的に問題になっていることであり、これからもっと掘り下げて学べる題材でもある。ただし海外研修後に「水」に関して扱おうと考えたので、日頃から、生徒に何を伝え、学んでもらいたいかという課題意識をもって自分の住む地域のことや外国のことを考えているかということが大切である。

生徒から発せられた疑問を解決すべく、生徒自身が調べるような学習を展開することが本当の意味での総合的な学習であると思われる。現在安曇野市には約 1200 名の外国籍の方が暮らしており、ベトナム出身の方は 32 名いるとのことである。JICA の青年海外協力隊、シニアボランティアの経験者も身近にいると思うので、そういった方々と接する機会を設けていくことも、国際理解、国際協力について身近に感じることができると考えられる。

今回の研修や授業をきっかけに、今後も国際理解や国際協力、持続可能な社会の構築に向けての授業を進めていき、生徒が学んだことを何らかの形で発表できる形にできればと考えている。

10 教師海外研修に参加して

私は英語の教師であり、教科書には、フェアトレードチョコレートに関わって、ガーナの力カオ農園の児童労働のことが取り上げられている。また、ソーラークッカーのことに関わって、世界では屋内でまきを燃やして調理したり、暖をとったりする人がたくさんいて、その煙によって死亡する人が 150 万近くいることが取り上げられており、それを読んで驚いた。自分が世界や世の中のことについてあまりにも知らなさすぎるという情けない思いと、もっと知りたいという関心が高まり、この教師海外研修に応募した。

事前研修で初めて SDGs というワードを聞き、それも新たな出会いであった。自分自身 SDGs についてもっと学び、生徒に伝え、その視点にたつて色々な物事を見直す活動をしていきたいと考えている。

ベトナムは上記のような状況とは違っていたが、ベトナム独自の生活文化があり、とっても刺激的であった。そのことを肌で感じることは大きな収穫である。また、青年海外協力隊員として現地で活動されている方の様子を見聞きできたり、JICA 事務所の方々のお話を聞けたりしたことも大きな収穫である。現地へ赴いて活動するバイタリティと強い信念を何らかの形で生徒に伝えていきたい。

自分自身知らないことをたくさん知ることができ、また、研修で学んだことを授業に生かすために更に勉強したり、調べたりすることで、多くの事を学ぶことができた。1つ活動を起こすことで、多くの学びが繋がって生まれてくることを知れたし、経験できたことは自分自身の心の幅を広げるのにとっても有用であった。